

信者たちが神のエコノミーにおける神の恵みを経験することは、  
キリストの有機的なからだとしての召会において究極的に完成する  
聖書：ヨハネ 1:16. ローマ 12:6. I コリント 1:2-4. II コリント 13:14.  
ガラテヤ 6:18. エペソ 4:7, 29. ピリピ 4:23. 啓 22:21

I. 神のエコノミーにおける恵みの下での新約の信者たちの生活は、手順を経て究極的に完成された三一の神を恵みとして経験する生活全体です——ガラテヤ 6:18. ヘブル 4:16. 啓 22:21 :

- A. クリスマン生活は恵みの生活、恵みの経験でなければなりません。わたしたちのクリスマン生活は、本質的に、神をわたしたちの恵みとする生活です——II コリント 1:12。
- B. 生活全体とは、わたしたちの生活がすべて、三一の神が手順を経てわたしたちの恵みとなる生活であることを意味します——II コリント 13:14。
- C. 複合の霊は、日ごとにわたしたちの中で、油塗りとして行動しています。それは、わたしたちが手順を経た三一の神を恵みとして享受するためです——I ヨハネ 2:20, 27。
- D. 主イエス・キリストの恵み、すなわち恵みの霊は、わたしたちの霊と共にあります。わたしたちの霊は再生されて、三一の神の住まい、また器となっています——ヘブル 10:29 後半. ガラテヤ 6:18. ピリピ 4:23. プレモン 25 節. II テモテ 4:22。
- E. わたしたちは恵みを受けた者です。恵みとは三一の神です——御父は、御子の中でわたしたちに与えられ、御子はその霊として実際化され、わたしたちの霊の中に住んでいます——I コリント 15:45 後半. 6:17。
- F. わたしたちは聖徒であるので、主の恵みはわたしたちの日常生活のあらゆる面において、わたしたち一人一人と共になければなりません——ピリピ 4:23. エペソ 4:7。

II. 真の召会は、キリスト・イエスの中で召会に与えられる恵みに基づいています——I コリント 1:2-4 :

- A. 神の恵みは、召会の霊性や状態に基づいて召会に与えられるものではありません。
- B. 神の恵みだけが、召会の基礎です——I コリント 16:23。
- C. I コリント第1章4節における神に対するパウロの感謝は、キリスト・イエスの中で召会に与えられた恵みの賜物に基づいていました。
- D. 召会は、恵みの基礎の上に立っています。それは、召会がさらなる恵みを受けるためです——啓 22:21。
- E. わたしたちは、恵みを基礎として受けています。わたしたちは恵みの上に立っているのであって、わたしたちの属性や美德や卓越性の上に立っているのでは

ありません。ですから、わたしたちはさらに多くの恵みを、恵みの上にさらに恵みを受ける資格があります——ヨハネ 1:16。

Ⅲ. 信者たちが神のエコノミーにおける神の恵みを経験することの究極的完成は、キリストの有機的なからだとしての召会です——I コリント 12:12-13, 27. エペソ 1:6-8, 22-23 :

- A. 恵みとは、循環する三一の神が、彼であるすべてをわたしたちの中へと分与して、わたしたちの享受となることです。召会生活全体は、わたしたちの内側の神聖な三一の循環である恵みにかかっています——I ペテロ 5:10. 使徒 4:33. II コリント 8:1. 13:14。
- B. キリストのからだの実際的な生活と建造は、神の恵みを内側で享受することから出てきます——I コリント 1:9. II コリント 13:14。
- C. キリストの有機的なからだのあらゆる部分は、神のエコノミーにおける神の恵みから出てきたものです——ローマ 12:4-6 前半。
- D. からだの中でわたしたちが持っている賜物は、わたしたちに与えられた恵みにしたがって異なっています。これらの賜物は、わたしたちがキリストの恵みを経験したことの結果です——ローマ 12:6 :
1. この恵みは、神がキリストの中で、神聖な要素として、わたしたちの存在の中へと入って来て、わたしたちの命となり、わたしたちの享受となることです——ヨハネ 1:16. II コリント 13:14。
  2. この恵みはわたしたちの中へと入って来るとき、ある霊的な技能や能力の要素をもたらします。それはわたしたちの命の成長に伴って、発展して命の賜物となります。それはわたしたちがキリストのからだの中で機能して、神に仕えるためです——ローマ 12:6-8。
  3. ローマ第 12 章 6 節では、賜物は恵みにしたがって異なっています。エペソ第 4 章 7 節では、恵みは賜物にしたがって与えられました：
    - a. 恵みは、賜物を生み出し供給する神聖な命です。
    - b. ローマ第 12 章では、賜物を生み出すのは恵みです。こういうわけで、賜物は恵みにしたがっています。
    - c. エペソ第 4 章では、恵みは賜物にしがっており、賜物の度量にしがっています。
- E. キリストの有機的なからだとしての召会の中でわたしたちは、腐敗した言をわたしたちの口から出すべきではなく、「必要に応じて、建造するのに良い言だけを語り、聞く人たちに恵みを与えるように」するべきです——エペソ 4:29 :
1. わたしたちが他の人たちに語る言葉は、恵み（わたしたちの享受また供給としてのキリスト）を伝達するべきです——II コリント 13:14. ローマ 16:20. I コリント 16:23. ガラテヤ 6:18。
  2. 人を建造する言葉は、恵みとしてのキリストを、聞く人たちに常に供給しま

す——エペソ 4:29。

IV. エペソ第3章2節で使徒パウロは、恵みの執事職が、からだの肢体のために彼に与えられたと言います——エペソ 5:30 :

- A. エペソ第3章2節と9節でパウロは、「オイコノミア (oikonomia)」というギリシャ語を使っています。この言葉は、9節では神のエコノミーを指しており、2節では使徒の執事職を指しています。
- B. 神の恵みの執事職がわたしたちに与えられたのは、わたしたちがキリストのからだの建造のために生活し、仕えるためです——エペソ 3:2-7 :
1. 恵みの執事職は、神の恵みを彼の選ばれた民の中へと分与して、キリストのからだとしての召会を生み出し建造するためです—— I コリント 4:1-2。
  2. この執事職から、使徒の務めが出てきます。使徒は、神の家の執事であって、神の恵みとしてのキリストを神の家族に供給します—— I コリント 9:17。
  3. パウロの務めは、キリストの豊富を恵みとして信者たちに分与して、彼らに享受させることでした——エペソ 3:8。
  4. 神のエコノミーは、神ご自身と共にあります。しかし、恵みの執事職は、パウロ一人に与えられただけではありません。この執事職は、すべての信者に与えられています。
  5. 恵みの執事職は普遍的なものです。キリストのからだのために、すべての聖徒は、神のエコノミーにしたがった恵みの執事職を持っています——エペソ 3:2, 9。